

日本語表現 の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (2 単位)	表現の基本	9	4	1	14
	実践的な文章	8	5	1	14
細目数計		17	9	2	28

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
表現の基本	文字と表記	漢字	漢字の成り立ち、音訓、熟語についての基本的知識を理解する。	A
		ひらがな・カタカナ	漢字の成り立ちを踏まえた上で、ひらがな・カタカナの性格を理解する。	B
		仮名遣いと送り仮名	正しい仮名遣いと送り仮名の付け方を理解し、漢字の意味と読みを明確にすることができる。	B
	語彙・語法	日本語文法	語構成などから日本語の特色を理解し、正しい日本語文法を身に付ける。	A
		修辞法	様々な修辞技法を学び、表現方法の多様性を理解する。	A
		語彙	熟語・同訓異義語・同音異義語など正確に理解し、活用することができる。	B
	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語	意味を理解し、正確に用いることができる。	A
		慣用表現	意味を理解し、正確に用いることができる。	A
	文章の種類	文のしくみ	主語・述語・修飾語・独立語などの文の成分を見分け、その構成を理解できる。	C
		文章の種類	様々な文章様式を理解し、目的に応じた文章を書くことができる。	A
		待遇表現	相手や場面に応じた待遇表現を身に付ける。	A
	敬語法	尊敬語・謙譲語	普通語に対応する尊敬語・謙譲語を理解し、用いることができる。	A
	文学的文章	文学史	文学作品及び作者を文学史上に位置づけることができる。	B
		日本文化論	作品を通し、日本の文化に対する理解を深め、自分の考えを持つことができる。	A
実践的な文章	原稿用紙の使い方	形式	基本的な原稿用紙の書き方を理解する。	B
		表記符号	表記符号の使い方を理解する。	C
		実践	原稿用紙の形式に則した正しい文章を書くことができる。	A
	推敲の仕方	文章の訂正	文中の不適切な表現や間違いを見つけ、適切な表現に訂正することができる。	A
	文章の構成	構成方法	文章構成の方法を理解し、論理的な文章を構築することができる。	B
		論述方法	論述方法を理解し、自分の考えを明確に表現および伝達することができる。	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
実践的な文章	小論文の書き方	小論文	小論文の意義および形式を理解する。	A
		実践	課題・目的を把握し、的確な論述ができる。	A
	手紙と事務文章	形式	手紙・はがきの形式を理解する。	B
		表現方法	形式とともに手紙に特有の語句・表現を理解し、正しい手紙文を書くことができる。	B
	履歴書	形式	履歴書の意義および形式を理解する。	B
		実践	形式に則して、明確な主張をもった文章を書くことができる。	A
	作品鑑賞	文学史	文学作品及び作者を文学史上に位置づけることができる。	A
		鑑賞	作品を正確に読解し、それに対する賛同・批判など自分自身の意見を持ち、かつ主張することができる。	A

保健体育 の基礎基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
4年生 (男女) 1単位	基礎的な動き	3	0	0	3
	実技	84	45	17	146
	理論	10	2	0	12
細目数計		97	47	17	161

2. 分類とそれらの内容

1 / 5

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
基礎的な動き	スポーツ	運動能力テスト 体力診断テスト 診断と評価	<ul style="list-style-type: none"> 持久走(男子1500m、女子1000m)、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび 測定結果に基づく自己評価と診断方法 	A A A
		基本技能(攻撃)	<ul style="list-style-type: none"> 投手の投球をバント:ショートバント :フッシュバント :スクイズバント(悪球でもバント) フリーバッティング:スローボールやスピードボールの打撃 コースを打ち分けるバッティング :内角球は身体の前でボールをとらえて左に :真ん中は本塁上でボールをとらえて中堅に :外角球はボールを引きつけ腰の回転を一瞬遅らせる 感 じで右に打ち返す :ボールの高低では、高いボールほど打球点が前になる プレースタッキング(狙ったところに打撃:ヒット・ラン・プレイや走者を次の塁に進める) 	A A A A C C C C B
実技 (選択制)	ソフトボール	基本技能(守備)	<ul style="list-style-type: none"> レギュラーバッティング:試合形式の実戦に近い形で ピッチング:スリングショット投法 :ウインドミル投法 捕手の捕球と送球:基本姿勢 :低いまたは高いボールの捕球 :内角または外角ボールの捕球 投手の守備:打球の処理 :投手の連携プレイ バックアップとベースカバー:3塁にボールが打たれた場合 :2塁にボールが打たれた場合 :1塁にボールが打たれた場合 リレー、カットオフ(各内野手・外野手、捕手が正規の守備位置に着き、ノッカーが外野にノックして練習、2塁または3塁に走者を置く) 走者がいない場合のチーム守備(野手の動き方) 投手のピッチアウトとスクイズプレイに対する内野手の守備 攻撃や守備に部分的な関係プレイに挑戦する 	A A B A A A A B B B B B B B A A
		ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> 審判 	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
実技 (選択制)	卓球	基本練習	・サーブ対ショート ・ショート対ショート ・サーブ対フォアハンドスピート ロング ・フォアハンドスピート ロング 対ショート ・フォアハンドスピート ロング 対フォアハンドスピート ロング ・ツッツキ対ツッツキ ・カットサーブ対 ツッツキ ・カット打法	A
		戦型	・前陣攻撃型の戦い方:ラケットとグリップ :フォアハンド、バックハンドの打ち方 :サーブの打ち方 :レシーブの打ち方	A A A A
		ゲーム	・ドライブ 攻撃型の戦い方:ラケットとグリップ :フォアハンド、バックハンドの打ち方 :サーブの打ち方 :レシーブの打ち方 :身につけたい4つのポイント フォアは前に踏み込む 思い切って振り切る スマッシュは確実に決める ロビングでしのぐ ・フットワークを生かしての打法ができ、コースの使い分け、サーブ、レシーブでの駆け引きを身につける ・シングルス、ダブルス ・審判	A A A A B A A A A A C
バドミントン	基本練習	・規則的な動きの練習 :ドロップ ・ヘアピン・ロブ 交互 :スマッシュ・ドロップ ・ロブ 交互 :ロブ ・アクト ・ヘアピン :スマッシュ・アクト ・ヘアピン ・不規則な動きの練習:オールロング :オールショート	B B C C	
	特別練習 ゲーム	・ロングサーブ、ショートサーブの練習 ・ショートサーブに対する対応の練習(ブッシュ) ・4(3)対4(3)のゲーム ・ハーフコートシングルのゲーム ・1対1のオールショートリタンのゲーム ・正規のルールによるリーグ戦 ・審判	A A A A B A B	
	個人的技術	・2マンランニングパス→ランニングシュート ・ゴール前4m位の距離でパスを受けてジャンプシュート ・リバウンドキャッチ後ジャンプシュート ・外側キープ地帯から1:1でドリブルシュートとその防御 ・ポストでの1:1攻めと守り	A B B A B	
バスケットボール	集团的連携プレイ	・3:3(ゴール前キープ地帯の正面やサイドに広がり合い、パスを回しながらパスアンドランやフェイントドリブルで攻め、マンツーマンでフォート、セリングで守る)	B	
	集团的チームプレイ ゲーム	・マンツーマン防御にセットオフェンスで攻める ・防御では、ボール保持者に対するつき方、ボールのない者に対するウィークサイドのつき方、ポストのつき方、その他、スクリーンに対するスイッチ防御、などをできる ・審判2人の間での連携プレイがきちんとゲームの中でできること ・審判	B B A B B	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分		
実技 (選択制)	バレーボール	基本練習	・パス:オーバーハンドパス :アンダーハンドパス ・トス:直上トス :ネット際からのトス :ネット際でジャンプトス :ネット際からのバックス :アタックエリア後方からのトス(二段トス) :ネットプレイからのトス ブロッキング :ブロッキングのタイミング :スパイクのコースを防ぐ :トスに対する読み :次の動作への関係 :ブロッキングの構えとジャンプ :手の出し方 :ブロッキングの基本的な動き サブ:アンダーハンドサブ :テニス式フロッターサブ :オーバーハンドのフロッターサブ :オーバーハンドのドライブサブ スパイク :直上トスからのスパイク :オフセットのスパイク :コート後方からのトスのスパイク :速攻(クイックスパイク)	A A B C C B A A B C C		
		サブレイブ	サブレイブの基本隊形:セッターが後衛の場合 :セッターが前衛の場合	A A		
		基本隊形	アタックレイブの基本隊形:レフト、センター、ライトからの攻撃に対し ブロックフォローの基本隊形	C B		
		基本的チーム構成	一人セッターの場合:セッターが前衛の場合 :セッターが後衛の場合 2人セッターの場合:サブレイブ0・6システムの場合 :サブレイブ1・5システムの場合	A A B B		
		ゲーム	メンバーの身体的特性やプレイの特徴を考えて、サブレイブシステムを決めてゲームを楽しむ ・審判	B A		
		基本技能の復習	・サービス(ブッシュサービス、アンダーサービス)の習熟 ・グラウンドストローク(フォアハンドのアンダーストローク、バックハンドのアンダーストローク)の習熟 ・フォアハンドボレー ・フラットサービス ・リバースサービス ・スライスサービス ・フォアハンドのサイドストローク ・フォアハンドのトップストローク ・バックハンドボレー ・ネット打ち	A A A B A A A A		
		技能学習	・サービス(ブッシュサービス、アンダーサービス)の習熟 ・グラウンドストローク(フォアハンドのアンダーストローク、バックハンドのアンダーストローク)の習熟 ・フォアハンドボレー ・フラットサービス ・リバースサービス ・スライスサービス ・フォアハンドのサイドストローク ・フォアハンドのトップストローク ・バックハンドボレー ・ネット打ち	A A A B A A A A		
		練習	・3コース(正クロス、ミドル、逆クロス)での乱打 ・コース打ち分け乱打 ・サービスの練習(ファーストサービスとセカンドサービスの打ち分け) ・雁行陣と平行陣の戦法を理解して作戦を立てる	A B A B		
		ゲーム	・審判	A		
		実技 (選択制)	サッカー	基礎技術・複合練習	・シュート:トラップ &シュート(色々な種類のサービスボールを) :コースを限定してのドリブルシュート :コースを変えてのドリブルシュート :ポストシュート:ダブルの壁パス&シュート :センタリングからシュート :パスからのシュート(2人、3人:ショート・ショート・ロングのリスクミカなパスを心がける) :1対1の攻め守りからのシュート :2対1の攻め守りからのシュート	A A A A C B A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技 (選択制)	サッカー	試合の組み立て	・守備戦術の理解:味方のかゝとスペースのかゝ :パスをさせない :インターセプト :前を向かせない :ワザイドカット(相手の動きを制限する) :サイド攻撃を守る(利き足で蹴らせない) :セット攻撃を守る(フリーキック時の壁、コーナークick時は必ず両ホストへ、マークははずさない)	B C	
			・攻撃戦術の理解:守備のバランスを崩す :中央突破(DFの分散が条件) :サイドチェンジ(FWがDFにプレッシャーをかける) :オーバーラップ(DFを迷わせる) :チェンジオブペース(チームの動きに緩急をつける) :フリーキック(相手の予測をはずす、正面からはトリック) :ペナルティキック :スローイン(とにかく速く正確に)	B A	
		2トップシステムの理解	・4-4-2システム、3-5-2システム(中盤の攻防を重視し、FW2人のシステムで現代サッカーの主流)	C	
		ゲーム	・2トップシステムによるゲームに挑戦 ・審判	B A	
	ゴルフ	練習上の確認	・安全管理の徹底理解	・エチケットとマナーの理解	A
		ゴルフウォーミングアップ	・(手の指⇒手首⇒肘⇒肩⇒首)、(足首⇒膝⇒腰)と心臓に遠い部分から、関節を曲げたり、のばしたり、回したりして		A
		ストレッチ体操	・弾みをつけない		A
		スイングの基本復習	・20~30秒間ののばし続ける ・息を吐くのに合わせて徐々にのばす ・クラブの握り方 足の位置 構え方 ・クラブの上げ方 バックスイングの頂点 ・クラブの振り下ろし ・打球の瞬間 クラブの振り抜き方 ・スイングの終了 素振り	A A A A A A A	
		7番アイアンのマスター	・スイングの基本を身につけるには使用クラブを7番アイアン1本に絞って練習した方が効果的であることを理解	A	
		基本練習	・ショット:穴あきボールで :ケージで :距離と方向をみながら(グラウンド)	B B	
		ハンドファーストの構え	・ハンドファーストはアドレスでグリップの位置をボールより目標方向に出した構え。アプローチやコンタクトショットに用いられる	B	
		コントロールショットの練習	・ハーフショット ・ピッチエンドラン ・30ヤード、50ヤード、100ヤード、130ヤードの距離で実践練習	C	
テニス		テニスの特性を理解	「始め・中身・終わり」の考え方(始めはサービスとレシーブ、中身はラリー、グラウンドストローク、終わりはウイングショット:始めと終わりが特に大切)	A	
		サービスの徹底理解	・グリップ:コンテクスチュアルで手首のスタップをきかず ・構え方:スタンスの幅と左足体重がポイント :ヒギナーは左右つま先のラインをそろえる ・トスタップ:コップを持つようにしてボールをつかむ ・テイクバック:肘を高くしてラケットをかつぎ上げる ・フォワード・スイング:ラケットヘッドでボールを真っ二つにする ・インパクト:インパクトの瞬間に手首のスタップをきかず	A A A A A A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分		
実技 (選択制)	テニス	サーブトレーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・天井、壁、ラケットを利用したトスアップの練習 ・ボールを使ったヘッドを走らせる練習 ・金網の壁を使ったトスアップとインパクトの練習 ・ボールを遠くに投げてヒジの使い方を覚える ・ひざまずいてスイングしヒジの使い方を覚える ・ラケットを放り投げてラケットヘッドを走らせる感覚を覚える ・ラケットをグルグル回しラケットに仕事をさせる感覚を覚える ・わざとオーバーコートさせ大きなスイングを覚える ・コートに目標を作ってコントロールをやしなう ・ボールでインパクトをチェック 	A B B A A A A A A A		
		サーブリターン徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジション:サーブ・コースの真ん中に立つ :ファーストは外、セカンドは中 ・テイクバック:フォア、バック ・フォワード・スイング & インパクト・フォロー:ラケットを振り抜く ・奥深くに力みせず確実にリターン ・考えずに勝手に身体が動くようにフォームを体に覚え込ませる 	A B A A B B		
		基本ストロークの練習	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを軽く出してもらいフォアとバックを打ち分ける ・実際にサーブをリターンする練習 ・近づいて剛球サーブを出してもらう ・ストローク:フォア、バックハンド 	A C B A		
		ダブルスの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・両手バックハンドストローク ・ボレー:フォア、バックハンド ・スマッシュ ・ポジショニング:ダブルスのサーブはセンターからセンターへ打つ :ダブルスの戦術は「センターセラー」 :サーブ側のネット・プレイヤーのポジショニング :レシーブ側のネット・プレイヤーのポジショニング ・フォーメーション:雁行陣(ラリーを続けるのに適している) :平行陣(ボレーの攻撃に適している) 	C B C B B		
		ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル、ダブルス ・審判 	B		
		AED使用法	AED	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDとは ・AEDの必要性と校内及び学校外に設置してある場所の確認 ・AEDの使用法 	A A A	
		理論	栄養と健康	現代人の食生活の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・標準体重を算出した上での栄養所要量 ・BMIの算出方法 ・基礎代謝量を利用した栄養所要量 ・主な栄養素とその機能 	A A B A
				生活習慣病と栄養のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質 ・望ましい食生活とは ・運動と栄養の関係性 	A
			薬と健康	薬の成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ・薬局と薬店の違いを把握し、適正使用を心がける ・薬の効果をえるために、薬には、主作用と副作用、相互作用があることを理解する 	A B
		自然治癒力		<ul style="list-style-type: none"> ・自然治癒力を高めるためには、栄養と休息が大切であることを再認識し、日頃から運動に励むことも重要であることを理解する 	A	
		スポーツと薬物乱用	<ul style="list-style-type: none"> ・ドーピングとは何かを知り、ドーピングの歴史や近年のドーピング事情を知る 	A		

英語 IV の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (2 単位)	文 法	14	9	0	23
	読 解	2	4	1	7
	聴 解	3	3	1	7
細 目 数 計		19	16	2	37

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
文法	文の構成	語・句・節・文	文を形成する各構成要素が理解できる。	A
	基本 5 文型	S, V, O, C の機能	基本文型としての第 1 文型から第 5 文型まで理解できる。	A
	時 制	過去・現在・完了	各時制の意味・用法が理解できる。	A
	動 詞	不定詞	To 不定詞、原形不定詞の意味・用法が理解できる。	A
		動名詞	動名詞の用法が理解できる。	A
		分詞	現在/過去分詞の形容詞的機能、動名詞との区別が理解できる。	A
	助動詞	法助動詞	will, shall, can, may, must, need, would, should などの意味・用法が理解できる。	B
	修 飾	語のレベル	形容詞、副詞の用法が理解できる	A
		句のレベル	名詞句・形容詞句・副詞句の意味・用法が理解できる。	A
		節のレベル	接続詞、関係詞の意味・用法が理解できる。	A
	名詞・冠詞	可算・不可算	可算・不可算の区別と冠詞の意味・用法が理解できる。	A
	代名詞	It の用法	状況の it, 形式主語、形式目的語の用法が理解できる。	A
		再帰代名詞	再帰・強意用法、慣用表現が理解できる。	A
		不定代名詞	one, another, (the) other(s) の意味・用法が理解できる。	B
	分詞構文	分詞構文	現在分詞、過去分詞による分詞構文の意味・用法が理解できる。	B
	比較表現	比較・最上級	比較・最上級表現が理解できる。	A
	仮定法	仮定法表現	仮定法過去、仮定法過去完了形が理解できる。	B
	否 定	部分否定	not—always, not —every などが理解できる。	B
		準否定語	few, little, seldom, hardly, rarely などの意味・用法が理解できる。	A
	倒置法	倒置文	強意的、慣用的用法の倒置文が理解できる。	B
同格・挿入	同格・挿入	コンマ、of、that 節を用いた表現形式が理解できる。	B	
無生物主語	無生物主語	英語独特の無生物主語構文が理解できる。	B	
伝達文	直接・間接話法	各話法が理解できる。	B	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
読解	論理の展開	文と文のつながり	つなぎ語(Linking word)を介して、文と文の関係が理解できる。	A	
	パラグラフ	パラグラフ	パラグラフ・リーディングができる。	B	
	手紙・Eメール	手紙・Eメール	手紙、Eメール等の内容把握ができる。	A	
	広告文	広告文	広告内容が把握できる。	B	
	案内文	案内文	アナウンスなどの内容が把握できる。	B	
	エッセイ	説明・描写	説明文の内容が理解できる。	B	
	時事問題	社会問題	社会問題に関する内容が把握できる。	C	
聴解	視覚問題	写真描写	写真描写に関する説明文が理解できる。	A	
	会話問題	対話文	対話の質問に答えられる。	B	
	文章問題	パッセージ	長文を聞いて、その質問内容に答えられる。	B	
	音声変化	リエゾン		one of 一, in a week などの連音が把握できる。	A
		聞こえなくなる音		Good jo(b)!, Ta(ke) care!などが認識できる。	B
		短縮形		I will ー → I'll などと認識できる。	A
変化する音			want to ー → wanna ーと認識できる。	C	

ドイツ語 I・II の基礎基本

項目数

分類	科目名	A	B	C
分類(1) 発話意図	I	1 7	1 2	2 4
	II	1 3	2 5	1 5
分類(2) 言語行為	I	2	9	7
	II	7	7	4

分類(1) : 発話意図の観点から

項目	細目	区分	
		I	II
1. 自己紹介する	a. 名前・出身地・専門・年齢などの表し方	A	B
	b. (2人の会話で) Siezen の質問とその答え方(疑問文の語順)	A	B
	c. (2人の会話で) ich、Sie での動詞の現在人称変化	A	B
	d. (3人以上の会話で) 3人称単数の動詞の現在人称変化	A	B
	e. (3人以上の会話で) 主語が複数での動詞の現在人称変化	A	B
2. 親しみをこめる	a. duzen での挨拶、Siezen での挨拶	A	A
	b. du、ihr の動詞現在人称変化	A	B
	c. 不規則な現在人称変化の動詞	B	A
	d. 相手を誘う表現：定動詞 1位+wir	B	A
	e. 相手を誘う表現：Haben Sie Lust, ... zu Inf.	C	C
3. 命令する・要求する	a. duzen での命令、Siezen での命令	A	A
	b. 話法の助動詞 müssen, sollen	B	A
	c. 二人称を主語にした要求の文	B	B
	d. 名詞+bitte	A	A
4. 自由な語順で表現する	a. 定動詞二位	A	B
	b. 定動詞一位	A	C
	c. 定動詞後置と枠構造	C	B
5. 時・場所・頻度を定める	a. 名詞の格	A	C
	b. 前置詞と格支配	B	A
	c. 頻度の副詞：oft, manchmal, selten など	B	C
	d. 場所の副詞：an, auf, vor, hinter, neben, über など	B	C
	e. 時の副詞と時刻の表現	B	A
	f. 分離動詞	B	A
6. 願望を表す、許可を求める	a. 話法の助動詞 möchte	A	B
	b. 話法の助動詞 können, dürfen の疑問文	C	B

7. 意志を明示する	a. 話法の助動詞 wollen	B	B
	b. ich を主語にした現在時制の文で意思を表す	A	B
	c. 否定 : nicht, kein, ja, nein, doch	A	A
8. 自らの見解を述べる	a. ich finde, ich meine, ich glaube	B	A
	b. dass を用いた副文章	C	B
	c. 形容詞の語尾変化	C	B
9. 説明を補足する	a. 目的について : damit... / um...zu Inf.	C	B
	b. 理由について : weil... / denn... / wegen...	C	B
	c. ある名詞についての情報を補足 : 関係詞	C	C
10. 物(無生物)を主語に使う	a. 受動	C	B
	b. 受動・可能の意味を含む表現 : sein+zu Inf. / sich lassen + Inf. / -bar	C	C
11. 作業の終了・完成	a. 動詞の三基本形	C	B
	b. 動詞の過去人称変化と過去時制の用法	C	B
12. 判断・可能性を示す	a. 話法の助動詞 können, dürfen による可能性の表現	C	B
	b. 話法の助動詞 müssen による必然性の表現	C	B
	c. 副詞 sicher, bestimmt, wahrscheinlich, wohl, vielleicht	C	A
13. 経験したことを報告する	a. 体験報告 : sein 動詞の過去 war	C	B
	b. 体験報告 : 完了時制	C	B
	c. 伝聞 : sagen+dass...	C	C
	d. 伝聞 : 接続法 I 式 sei, würde, hätte...	C	C
14. 比べる	a. 同等比較	C	C
	b. 比較級	C	C
	c. 最上級	C	C
	d. wie を用いた比喻	C	C
15. 将来の夢を語る、警告する、後悔する、残念がる	a. 接続法 II 式	C	C
	b. Es ist mir schade... / Es tut mir leid ...	B	A
16. 数を表す	a. 数詞	A	B
	b. 名詞の複数形の作り方と複数の格変化	A	C

分類(2) : 言語行為の能力訓練という観点から

項目	細目	区分		
		I	II	
a. 話す	1. 意思・要求を伝える	a. 単純な文	A	A
		b. 単純な文+副詞(句)	B	A
		c. 副文・不定詞(句)	C	B
	2. 客観的状況を説明する	a. 単純な文	B	A
		b. 単純な文+副詞(句)	C	B
		c. 副文・不定詞(句)	C	C
	3. 話者個人の考え・個性・経験を伝える	a. 単純な文	B	A
		b. 単純な文+副詞(句)	C	B
		c. 副文・不定詞(句)	C	B

b. 聞く	1. 話題が何かを聞き取る		A	A	
	2. 指定された特定の語(句)を聞き取る		B	A	
	3. 特定の情報を聞き取る		B	B	
	4. 聞き取ったことを文字にする		B	A	
c. 読む	1. 何について書かれたテキストかを即時に理解する		B	C	
	2. 特定の情報を拾い読みで読み取る		B	C	
	3. テキストの一部を別の文に書き換える	a. 語句の変更		C	B
		b. 文構造の変更		B	B
	4. テキスト全体の要約文を作る		C	C	

哲学の基礎・基本

1. 細項目数

	分類	A	B	C	細目数計
4年性（2単位）	道徳の存在のアポリア	3	2	1	6
	自由のアポリア	2	4	2	8
	社会のアポリア	2	6	2	10
	よく生きることのアポリア	2	2	2	6
細目数計		9	14	7	30

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
道徳の存在のアポリア	道徳はほんとうにあるのか & 道徳の源泉はどこにあるのか	道徳はほんとうにあるのか？	ギュゲスの指輪、「道徳的な力」について理解を深める。	A
		理性説と感情説	プラトン、デカルト、アクィナズといった理性説、ハッチスン、ヒューム、スミス、エアーとった感情説について理解する。	A
	道徳的知の獲得にとって道徳的生活は前提条件となるか	知と生活との循環	ソクラテス、プラトンの主知主義、アリストテレスからの批判、アクラシアの問題を理解する。	B
		「他者」と知の限界	レヴィナスの「他者」論、他者の「顔」について理解を深める。	C
		道徳は効率をめざすべきか、公正をめざすべきか & 道徳規範は世知と合致するのか	帰結主義による義務論の批判	ベンサム功利主義、カントの義務論を理解する。
	世知の復権		アリストテレスのヘクシス論を理解する。	B
自由のアポリア	自由は本当にあるのか	自由のアンチノミーの解消の試み	カントの「自由」に関する二律背反性と、実践理性におけるそこからの脱却について理解する。	B
		決定論の失墜	ラプラスのデーモン、負荷なき自己、についてその意	C

			義を理解する。	
	自由と平等は両立するの か	二つの自由	消極的自由と積極的自由の 違いについて理解する。	A
		現代の争点	ロールズのリベラリズム、 ノージックのリバタリアニ ズムについて理解する。	B
	自分の身体を自由 にできるの か	立場の対立	身体の自己所有権の是非に ついて深く考察できるよう になる。	B
		前提の考察	パターナリズム、リベラリ ズムについての理解を深め る。	A
	人間は自由である ことに耐えられる か & 無条件な寛 容はありうるの か	大審問官	ドストエフスキーが語る人 間の弱さと、イエスの救済 の話について理解する。	C
		寛容の政治的由 来	ロックの寛容論について理 解を深める。	B
社会のアポリア	法と道徳は一致す べきか	法と道徳をめぐ るアポリア	法実証主義、自然法論の流 れを深める。	A
		多元性との共存 に向けて	異質なる他者をどのように 理解してゆくか。一元論に 囚われない思考法を身につ ける。	C
	営利行為は悪か	営利行為は悪で ある	互酬性、競争原理の弊害に ついて理解する。	B
		営利行為は善で ある	ウェーバーのプロテスタン ティズムの倫理、スミスの 『国富論』について理解す る。	B
	個人の責任か、そ れとも団体の責任 か	責任とは何か	応答可能性、応報主義、矯 正主義、などを理解する。	B
		近代日本と責任	連帯、無限責任をつくらう とする権力的構造について 理解する。	C
	戦争はどこまで悪 か & 種の保存か 、それとも人間の	個人から国家へ	ホッブズ主義、ヘーゲル主 義、マルクス主義、社会進	B

	暮らしか		化論について理解する。	
		近代人間中心主義を超えて	シンガーの功利主義、レオポルドの土地倫理について理解する。	A
	男性と女性の差異は差別か	男並み平等化と女並み平等化	フェミニズム第一波、第二波、第三波について理解する。	B
		ジェンダーの非対称性	ラディカル・フェミニズムの問題点について理解する。	B
よく生きることのアポリア	生命はどのような場合にも尊重されるべきか	生命中心主義	SOL、自然権、パトス中心主義、などを理解する。	B
		生態系中心主義	循環系、動植物の差異と類似性、機能中心主義を理解する。	B
	道徳的行為は報われるのか & 人生に究極の意義はあるのか	旧約におけるテーゼ	幸福の応報論、来世主義の是非について考察を深める。	C
		アンチテーゼ再考	ニーチェのニヒリズム、囚人のディレンマについて理解する。	A
	信仰は市民生活を超えられるのか & 快楽を求めることは悪か	ファンダメンタリズムの現在	イスラム原理主義、プロテスタント原理主義、などを理解する。	C
		西洋倫理思想史における快楽論の基調	プラトン、魂の健康、アリストテレス、徳、自己への配慮、卓越主義、B.ウィリアムズの徳倫理学を理解する。	A

倫理学の基礎・基本

1. 細項目数

	分類	A	B	C	細目数計
4年性（2単位）	道徳的ジレンマ状況	3	3		6
	近・現代の倫理上の問題	1	3	2	6
	現代倫理学の基本的原理	3	3	4	10
	市民倫理の中心的問題	2	4	2	8
細目数計		9	13	8	30

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
道徳的ジレンマ	人を助けるために嘘をつくことはゆるされるか	キケロにおける約束の遵守	義務と権利、約束、行為の評価、などについて深く理解する。	B
		カントの倫理主義	倫理的判断の特徴、行為の動機と結果、普遍的妥当性、などについて深く理解する。	A
	10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか	サバイバル・ロッターリー	功利線の原理、最大多数の最大幸福、生存権、などを理解する。	A
		人格の尊厳	自己決定権について理解を深める。	A
	10人のエイズ患者に対して特効薬が一人分しかないとき、誰に渡すか	ミルの平等論	平等原理について深く理解する。	B
		最大幸福原理と平等原理	多数決原理、ドンブリ勘定の功利主義などについて理解を深める。	B
近・現代の倫理上の問題	エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか	ベンサム対カント	利己主義、快樂主義、義務論、仮言命法と定言命法、などについて深く理解する。	B
		豚とソクラテス	質的功利主義の長所・短所について理解する。	C
	どうすれば幸福の	功利主義の欠点	単一原理主義の破綻、配分	C

C

	計算ができるのか		原理の不在、義務への動機づけの不在、などについて理解する。	
		功利主義の改善	行為功利主義と規則功利主義、推移律の成立条件について理解する。	B
	判断能力の判断は誰がするのか	人格の範囲	エンゲルハートによる人格の定義の意義を理解する。	B
		人格概念の要約と問題点	妊娠中絶・臓器移植・安楽死などにおける人格認定問題の難しさを理解する。	A
現代倫理学の基本的原理	「である」から「べきである」を導き出すことはできないか	自然主義的誤謬	ムーアの功利主義批判、価値判断と事実判断の区別について理解する。	B
		論理とレトリック	サールの「である」から「であるべき」の導出方法の検証とその意義について理解する。	C
	正義の原理は純粋な形式で決まるのか、共同の利益で決まるのか	厳密主義	ア・プリオリの知識、分析判断と総合判断を理解する。	B
		ヒュームの正義論と形式主義の可能性	カントの義務論とヒュームの正義論の違いについて理解する。	A
	思いやりだけで道徳の規則ができるか	黄金律と互酬性	黄金律、互酬性、世代間倫理について理解を深める。	A
		さまざまな試み	ロールズの無知のヴェール、ヘアの二段階の普遍化理論について理解する。	C
	正直者が損をするのはどうしたら防げるか	囚人のジレンマ	ゲーム理論、アローの定理について理解する。	C
		公平な第三者	民主主義の長所・短所、意志決定プロセスについての理解を深める。	B
	他人に迷惑をかけるなければ何をしてもよいか	自由主義の原則	自由主義、他者危害の原則、愚行権、について理解する。	A

		自由主義と共同体主義	アトムの個体、負荷なき自己の是非、について理解を深める。	C
市民倫理の中心 的問題	貧しい人を助けるのは豊かな人の義務であるか	二重結果の議論	動機と責任との関係について理解を深める。	B
		完全義務と不完全義務	相互的な完全義務、恩恵的な不完全義務について理解を深める。	B
	現在の人間には未来の人間に対する義務があるか	現在の人の未来の人への犯罪	近代倫理システムの共時的構造について理解する。	C
		世代間の関係	「恩」のシステム、通時的倫理の意義について理解する。	A
	正義は時代によって変わるか	相対主義	ヘロドトスなどの例、ウィリアムズの相対主義批判について理解する。	C
		変化は事実判断で起こる	価値観変化のように見える事態の本質について多角的に分析できるようになる。	B
	科学の発達に限界を定めることができるか	沈黙の春	科学者による科学批判の意義を理解する。	A
		科学は中立的か	科学技術社会における人間の「在り方」について理解を深める。	B

社会概説 I (現代史) の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (2単位)	近代までの世界	0	0	1	1
	現代日本を理解するための日本文化史	0	0	4	4
	明治・大正の日本における政治と文化	7	0	0	7
	歴史研究入門	0	1	0	1
	昭和・平成	3	1	0	4
	現代の世界	$3 + \alpha$	0	0	$3 + \alpha$
細目数計		$13 + \alpha$	2	5	$20 + \alpha$

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
近代までの世界	近代以前の世界	近代までの歴史の概要	近代までの世界各地の歴史の概要を理解することができる。	C
現代日本を理解するための日本文化史	日本文化史	日本人のルーツ	日本人のルーツについて理解することができる。	C
		文字	日本の文字のルーツ、特徴について理解することができる。	C
		芸能	日本の芸能について概要を理解することができる。	C
		庶民の文化	日本の庶民文化についてその概要を理解する。	C
明治・大正の日本における政治と文化	幕末から明治にかけての日本と鹿児島	島津斉彬と集成館事業	島津斉彬の人物像と薩摩藩の事業としての集成館事業の概要を理解することができる。	A
		薩摩対幕府	薩摩と幕府の対立の背景・概要を理解することができる。	A
		坂元龍馬	坂元龍馬の人物像とその功績を理解することができる。	A
		西郷隆盛と明治政府	西郷隆盛の人物像と明治政府とのかかわりを理解することができる。	A
		大久保利通	大久保利通の人物像とその功績を理解することができる。	A
		天文館	天文館の歴史について、その概要を理解することができる。	A
		大正と大衆	大正時代の大衆文化について理解することができる。	A
歴史研究入門	歴史研究入門	郷土史研究の実例	郷土史研究の実例を通して、歴史研究の手法について理解することができる。	B
昭和から平成	大正から昭和にかけての日本と鹿児島	昭和初期の鹿児島の歴史	昭和初期の鹿児島の様子を理解することができる。	B
		第二次世界大戦	第二次世界大戦の背景、日本のかかわりを理解することができる。	A
		終戦と日本	終戦後の日本社会の変容と発展を理解することができる。	A
		現代日本への道のり	終戦後の日本史の概要を理解することができる	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
現代の世界	現代の世界	第二次世界大戦後の世界の動向	第二次世界大戦後の世界について、その概要を理解することができる。	A
その他	今を観るための現代史	現代の世界	現在、世界で生じている諸問題を考え、解く上で必要な事項について理解する。	A
		時事問題	現代社会において重要な時事問題について理解することができる。	A × X
		テーマ史	講義進行時点での世界情勢を理解するために必要なテーマについて考え、自己の意見が述べられるようになる。	A × X

社会概説Ⅱ（日本国憲法）の基礎・基本

1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (2 単位)	憲法総論		9	3	4	16
	基本的人権		19	6	1	26
	統治機構		8	5	2	15
細目数計			36	14	7	57

2. 分類とそれらの内容

1 / 3

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
憲法総論	憲法と立憲主義	国家と法	国家の概念と、国家と法の関係を理解することができる。	B
		憲法の意味	形式的意味の憲法と実質的意味の憲法、立憲的憲法の意義を理解することができる。	A
		憲法の分類	伝統的な側面、機能的な側面での憲法の分類を理解することができる。	C
		憲法規範の特質	憲法規範の特質として、憲法が自由の基礎法であること、憲法が国家権力を制限する基礎法であること、憲法の最高法規性を理解することができる。	A
		法の支配	法の支配の原理、立憲主義の意義を理解することができる。	A
	憲法史	明治憲法の特徴	民主的な要素、反民主的な要素の両面から、明治憲法の特質を理解することができる。	C
		日本国憲法の成立過程	ポツダム宣言受諾以降の日本国憲法制定の経過を理解することができる。	C
		日本国憲法成立の法理	日本国憲法の成立に関する問題である、自立性と民定性についての理論を理解することができる。	C
	国民主権原理	憲法前文	憲法前文の解釈を通して、日本国憲法の基本原則を理解するとともに、前文の法的性質を理解することができる。	B
		国民主権	主権の意味、国民主権の意味を理解することができる。	A
		天皇制	国民主権と天皇制との関係、象徴天皇制における天皇の権能を理解することができる。	A
	平和主義	憲法第9条成立の経緯	平和主義の起源、平和主義の意図を理解することができる。	A
		戦争放棄	憲法9条1項が定める戦争放棄の内容を理解することができる。	A
		戦力不保持	自衛権と戦力不保持との関係を理解することができる。	A
		交戦権の否認	交戦権の否認の意味を理解することができる。	A
		安保体制	日米安全保障条約の概要と日本国憲法が定める平和主義との関係での問題点を理解することができる。	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
基本的人権	基本的人権の原理	人権の観念	人権の固有性、不可侵性、普遍性を理解することができる。	A
		人権の内容	人権の基本的な内容を把握し、分類をすることができる。	B
		人権の享有主体	天皇・皇族、法人、外国人の人権享有主体性に関する判例・学説を理解し、自分の考えをまとめることができる。	A
		人権と公共の福祉	人権制約原理に関する学説を理解し、比較衡量論、二重の基準論を理解することができる。	A
	基本的人権の限界	特別な法律関係における人権	特別権力関係論とその問題点を把握し、特に、公務員の人権、在監者の人権を考慮することができる。	B
		私人間における人権の保障と限界	人権の私人間効力に関して、直接適用説および間接適用説の意義・問題点を理解することができる。	A
		生命・自由・幸福追求権	幸福追求権の意義、幸福追求権から導き出される人権として、特に、プライバシー権・自己決定権について理解することができる。	A
	包括的基本権と法の下の平等	法の下の平等	日本国憲法の定める法の下の平等の意義、平等違反の違憲審査基準を理解した上で、尊属殺重罰規定の合憲性	A
		思想・良心の自由	思想・良心の自由の保障の意味を理解することができる。	A
	精神的自由権	信教の自由	信教の自由の内容と限界、政教分離原則について理解することができる。	A
		学問の自由	学問の自由の内容と保障の意味、また、大学の自治の意味について理解することができる。	A
		表現の自由の意味	表現の自由の価値、表現の自由と知る権利の関係を理解することができる。	A
		表現の自由の内容	報道の自由、性表現・名誉毀損的表現についての問題点を把握し、それぞれの意義を理解することができる。	A
		表現の自由の限界	二重の基準論、事前抑制の法理、明確性の理論、「明白かつ現在の危険」基準、「より制限的でない他の選ぶ手段」基準の意義と機能を理解することができる。	A
		集会・結社の自由、通信の秘密	集会の自由、集団行動の自由、結社の自由、通信の秘密の内容を理解することができる。	B
		職業選択の自由	職業選択の自由の意義と限界、規制の合憲性の判定基準を理解することができる。	A
	経済的自由権	居住移転の自由	居住移転の自由の内容と性質を理解することができる。	B
		財産権の補償	財産権補償の意味、財産権の一般的制限の内容、補償の要否、正当な補償の内容について理解することができる。	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
基本的人権	人身の自由	人身の自由の基本原則	奴隷的拘束からの自由、適正手続の内容を理解することができる。	A	
		被疑者の権利	不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵の内容について理解することができる。	B	
		被告人の権利	公平な裁判所の迅速な裁判を受ける権利、証人審問権・喚問権、弁護人依頼権、自己負罪の拒否、自白、事後法と「二重の危険」の禁止、残虐刑の禁止の内容を理解することができる。	C	
	国務請求権	国務請求権	請願権、裁判を受ける権利、国家賠償及び補償請求権の内容を理解することができる。	B	
		参政権	参政権の意義、選挙権の法的性格、選挙権の要件を理解することができる。	A	
	社会権	生存権	生存権の法的性格を理解することができる。	A	
		教育を受ける権利	教育権の所在に関する議論を通して、教育権の内容を理解することができる。	A	
		労働基本権	労働基本権の内容と性格、労働基本権の制限、公務員の労働基本権の内容を理解することができる。	A	
	統治機構	国会	権力分立の原理	権力分立の現代的意義を理解することができる。	B
			国会の地位	国民代表機関性、国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味を理解することができる。	A
国会の組織と活動			二院制、選挙制度、国会議員の地位、国会の活動を理解することができる。	A	
国会の議院の権能			国会の権能と議院の権能を理解することができる。	C	
内閣		行政権と内閣	行政権の概念を理解することができる。	A	
		内閣の組織と権能	内閣の組織、シビリアンコントロールの原則、内閣総理大臣の地位、内閣の権能と責任を理解することができる。	A	
		議院内閣制	議院内閣制の本質を理解することができる。	A	
裁判所		司法権の意味と範囲	司法権の概念、司法権の範囲、司法権の限界を理解することができる。	A	
		裁判所の組織と権能	裁判所の組織、裁判官の地位、最高裁判所の規則制定権の意義を理解することができる。	B	
		司法権の独立	司法権独立の意義と内容を理解することができる。	A	
財政・地方自治		財政	財政民主主義、租税法律主義を理解することができる。	B	
		地方自治	地方自治の本旨、地方公共団体の機関、条例の意義を理解することができる。	B	
憲法の保障		憲法保障の類型	抵抗権及び国家緊急権を理解することができる。	C	
		違憲審査制	違憲審査権の根拠、性格、付随的違憲審査制の特質、違憲審査の主体と対象、違憲判断の方法と判決の効力を理解することができる。	B	
		憲法改正の手續と限界	硬性憲法の意義、憲法改正の手續、憲法改正の限界を理解することができる。	A	

文学概論の基礎・基本

1. 細目数

分類	項目	A	B	C	細目数計
文学概論	韻文作品	4	4	3	11
	劇作品	4	1	0	5
	散文作品	2	3	0	5
細目数計		10	8	3	21

2. 項目とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
	韻文作品	近代詩	日本の近代詩の歴史背景が理解できる	C
			日本の近代詩の表現の仕組みを理解できる	B
		現代詩	日本の現代詩の歴史背景が理解できる	C
			日本の現代詩の表現の仕組みを理解できる	A
		定型詩	短歌の表現の仕組みを理解できる	B
			俳句の表現の仕組みを理解できる	B
			日本の定型的近代詩の表現の仕組みを理解できる	C
		欧米の詩	押印詩の仕組みを理解できる	A
			自由韻律詩の仕組みを理解できる	A
		歌詞	歌詞と詩の違いを理解できる	B
	批評	韻文作品を批評できる	A	
	劇作品	劇作品の構成	ドラマ作品の構成法を理解できる	A
		劇作品の演出	ドラマ作品の演出法を理解できる	A
		台詞	ドラマ作品の台詞の表現方法を理解できる	B
		人物イメージ	ドラマ作品における人物イメージの役割について理解できる	A
批評		劇作品について批評できる	A	
	リアリズム	リアリズムの表現について理解できる	B	

		シュールリアリズム	シュールレアリズムの表現について理解できる	B
		モダニズム	モダニズムの表現について理解できる	B
		ポスト・モダン	ポスト・モダンの傾向について理解できる	A
		批評	表現方法・時代思潮の特徴を踏まえて、散文作品を批評できる	A

韓国語 I の基礎・基本

1. 細目	分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (2 単位)	基本	12	5	1	18
	応用	3	3	2	8
細目数計		15	8	3	26

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
基本	オリエンテーション	ハングル文字(1)	ハングルの創製背景、及び文字の特徴が理解でき、基本的知識を理解することができる。	A
		基本子音、母音	基本子音、母音を理解し、文字の組み立てができ、それぞれの性格を理解することができる。	A
	ハングル文字(2)	バッチム	バッチムが理解でき、細かい発音を理解することができる。	A
		基本的な挨拶と自己紹介 1	韓国の挨拶と簡単な自己紹介ができ、基本的な表現方法を理解することができる。	A
	ハングル文字(3)	連音化	連音化などの発音の変化が理解でき、明確な発音を理解することができる。	A
		基本的な挨拶と自己紹介 2	基本的な挨拶ができ、意味を理解し、目的に応じて用いることができる。	A
	韓国語で名前を書く	指定詞	指定詞の意味を理解し、正確に用いることができる。	A
		日本語の韓国語表記法	日本語での韓国語表記方法を理解する。	B
	存在詞と下さいの表現	存在詞の否定形	存在詞の否定形を理解でき、目的に応じた文章を書くことができる。	A
		下さいの表現	下さいの表現を理解でき、目的に応じた文章を書くことができる。	A
	存在詞の疑問形	存在詞の疑問形	存在詞の疑問形が理解でき、正しい文法を理解することができる。	B
		曜日	曜日を韓国語で言うことができ、表現に用いることができる。	A
	数詞	固有数字と漢数字	固有数字と漢数字が理解でき、用い方を理解する。	A
		単位	色々な単位が理解でき、用い方を理解する。	B
	数詞と単位	様々な単位と数字	様々な単位と共に、数字が自由に表現することができる。	B
	位置・方向の表現	位置代名詞	韓国語で位置代名詞の表現が理解でき、場面に応じた表現をすることができる。	C
方向		韓国語で方向の表現が理解でき、場面に応じた表現をすることができる。	B	
存在詞、指定詞と位置・方向	存在詞、指定詞と位置・方向の表現	韓国語で「～の方ですか」の表現ができ、文章を構築することができる。	A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
応用	韓国の食文化	韓国の食べ物と食文化	韓国の食べ物と食文化が理解でき、韓国文化に対する理解を深める。	C
		注文の表現	注文の表現を理解し、用いることができるようにする。	B
	動詞の活用(1)	합니다体の作り方	합니다体の作り方が理解でき、適切な表現をすることができる。	B
	家族と言葉	家族の文化	韓国の家族の文化を理解することができる。	C
		家族構成員の呼び方	家族構成員の呼び方を韓国語で言うことができる。	A
	動詞の活用(2)	해요体の作り方	해요体の作り方が理解でき、正確に用いることができる。	A
	趣味の表現	職業、趣味の表現	職業、趣味の表現ができ、正確に用いることができる。	B
	自己紹介	自己紹介	家族構成、歳、趣味など自己紹介ができる。	A

中国語 I の基礎・基本

1. 細目数

分類	項目	A	B	C	細目数計
中国語 I	発音	4	3	0	7
	文の組み立て	4	3	0	7
	存在表現	3	1	0	4
	時間表現	1	2	0	3
	可能表現	0	0	2	2
細目数計		12	9	2	23

2. 項目とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
	発音	ピンイン表記	ピンイン表記の原則が理解できる	A
		母音	母音を正しく発音できる	A
		子音+母音	子音+母音を正しく発音できる	A
		声調	声調を正しく発音できる	A
		有気音・無気音	有気音・無気音を正しく発音できる	B
		複韻母	複韻母を正しく発音できる	B
		鼻音を伴った韻母	鼻音を伴った韻母を正しく発音できる	B
	文の組み立て	名詞述語文	名詞述語文を理解し、正しく使用できる	A
		指示代詞	指示代詞を理解し、正しく使用できる	A
		形容詞述語文	形容詞述語文の組み立て、形容詞を理解し、正しく使用できる	B
		助詞	「的」を理解し、正しく使用することができる	B
		肯定文	肯定文を理解し、正しく使用することができる	A
		否定文	否定文を理解し、正しく使用することができる	A
	疑問文	疑問文を理解し、正しく使用することができる	B	

	存在表現	数詞	数詞を理解し、正しく使用することができる	A
		量詞	量詞を理解し、正しく使用することができる	A
		話法	話法を理解し、正しく使用することができる	A
		存在動詞	存在動詞を理解し、正しく使用することができる	B
	時間表現	時刻	時刻の言い方を理解し、正しく使用することができる	A
		日付	日付の言い方を理解し、正しく使用することができる	B
		曜日	曜日の言い方を理解し、正しく使用することができる	B
	可能表現	能	可能の能を理解し、正しく使用することができる	C
		会	可能の会を理解し、正しく使用することができる	CS

線形代数Ⅲ の基礎基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (1 単位)	行列の応用	8	3	1	12
細目数計		8	3	1	12

2. 分類とそれらの内容

1 / 1

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
行列の応用	線形変換	線形変換の定義と性質	線形変換の定義と性質を理解し、基本的な問題を解くことができる。	A
		合成変換	合成変換の定義を理解できる。	A
		逆変換	逆変換の定義を理解できる。	A
		回転を表す線形変換	回転を表す行列を理解し、基本的な問題を解くことができる。	A
		直交変換	直交変換と直交行列の定義を理解し、基本的な問題を解くことができる。	B
	固有値とその応用	固有値	固有値の定義を理解できる。	A
		固有ベクトル	固有ベクトルの定義を理解できる。	A
		固有方程式	固有方程式を解き、固有値を求めることができる。	A
		行列の対角化 (2 次, 3 次)	2 次、3 次の行列の固有値、固有ベクトルを求め、対角化ができる。	A
		対称行列の対角化	直交行列による対称行列の対角化ができる。	B
		2 次形式の標準形	対称行列の対角化を利用して 2 次形式の標準形を求めることができる。	B
		行列の n 乗	対角化を利用して行列の n 乗を求めることができる。	C

微分方程式 の基礎基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (2 単位)	常微分方程式	6	4	2	12
	演算子法	5	2	0	7
細目数計		11	6	2	19

2. 分類とそれらの内容

1 / 1

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
常微分方程式	1 階微分方程式	変数分離形	変数分離形の微分方程式が解ける	A	
		同次形	同次形の微分方程式が解ける	A	
		線形	定数変化法を用いて線形微分方程式が解ける	A	
		ベルヌーイ形,	置換によりベルヌーイ形の微分方程式が解ける	B	
		リッカティ形	特殊解によりリッカティ形の微分方程式が解ける	B	
		完全微分形,	積分因子を用いて完全微分形の微分方程式が解ける	B	
		応用	クレロー形, ラグランジュ形, ダランベール形の微分方程式が解ける	C	
	2 階微分方程式	解の性質	解の一次独立と重ね合わせの原理を理解する	A	
		解の公式	補助 (特性) 方程式の 3 種類の解に応じて、同次 (斉次) 線形微分方程式の 3 種類の解の公式が対応していることを理解し、具体的に求めることができる	A	
		未定係数法	右辺=整関数、指数関数、三角関数の非同次 (斉次) 線形微分方程式が未定係数法により解ける	A	
			右辺=複合関数の非同次 (斉次) 線形微分方程式が未定係数法により解ける	B	
		階数低下法	置換により高階微分方程式が解ける	C	
	演算子法	微分演算子	微分演算子	微分演算子法の計算ができる	A
			逆演算子	逆演算子の性質を理解し計算ができる	A
特殊解の求め方			山辺の方法により、右辺=整関数の場合の非同次 (斉次) 線形微分方程式の特殊解を求めることができる	A	
			右辺=指数関数の場合の非同次 (斉次) 線形微分方程式の特殊解を求めることができる	A	
			オイラーの公式により、右辺=三角関数の場合の非同次 (斉次) 線形微分方程式の特殊解を求めることができる	A	
			右辺=複合関数の場合の非同次 (斉次) 線形微分方程式の特殊解を求めることができる	B	
連立微分方程式			連立微分方程式が解ける	B	

統計学 の基礎・基本

1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (1 単位)	確率分布		9	4	0	13
	標本と統計的推定		9	4	1	14
	統計的検定		2	3	2	7
細目数計			20	11	3	34

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
確率変数と確率分布	確率分布	一様分布	一様分布の定義が理解できる	A
		一様分布の平均と分散	一様分布の平均と分散を求めることができる	A
		指数分布	指数分布の定義が理解できる	A
		ポアソン分布	ポアソン分布の定義を理解し、確率を求めることができる	B
	正規分布	正規分布	正規分布の定義が理解できる	A
		正規分布の平均と分散	正規分布の平均と分散を求めることができる	B
		標準化変換	標準化変換を用いて正規分布の確率を求めることができる	A
		二項分布の正規分布による近似	二項分布の確率を正規近似で求めることができる	A
	2次元の確率変数	2次元確率変数	2次元確率変数の概念を理解できる	A
		確率変数の独立	確率変数の独立の定義を理解できる	A
		同時確率分布	同時確率分布の定義を理解できる	B
		確率変数の和の平均	平均の性質を理解できる	A
		確率変数の和の分散	分散の性質を理解できる	B
標本と統計的推定	統計量と標本分布	無作為標本	無作為標本の概念を理解できる	A
		標本分布	標本分布の概念を理解できる	A
		標本平均の平均	標本平均の平均を理解できる	A
		標本平均の分散	標本平均の分散を求めることができる	B
		標本平均の分布	標本平均の分布を求めることができる	A
		中心極限定理	中心極限定理の意味を理解できる	C
		標本比率	標本比率が正規分布で近似できることを理解できる	B
		カイ2乗分布	カイ2乗分布の確率をカイ2乗分布表から求めることができる	A
		t分布	t分布の確率をt分布表から求めることができる	A
	母数の推定	点推定	点推定を概念を理解できる	A
		区間推定	区間推定の概念を理解できる	A
		母平均の区間推定	母分散既知の場合の母平均の区間推定を求めることができる	A
			母分散未知の場合の母平均の区間推定を求めることができる	B
母比率の区間推定	母比率の区間推定を求めることができる	B		

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
統計的検定	母数の検定	仮説検定	仮説検定の意味を理解できる	A
		対立仮説と帰無仮説	対立仮説と帰無仮説の概念が理解できる	B
		母平均の検定	母分散既知の場合の母平均の検定ができる	A
			母分散未知の場合の母平均の検定ができる	B
	母比率の検定	母比率の検定ができる	B	
	カイ2乗検定	適合度検定	適合度検定ができる	C
		独立性の検定	独立性の検定ができる	C

数学演習 の基礎・基本

1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (前期) (1 単位)	微分法		14	4	1	19
	積分法		6	1	2	9
	微分方程式		4	2	1	7
	線形代数		12	5	2	19
細目数計			36	12	6	54

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
微分法	導関数の性質	和・差の導関数	基本関数の実数倍, 和・差の導関数が求められる	A
		積・商の導関数	基本関数の積・商の導関数が求められる	A
	合成関数の導関数	合成関数の微分法	合成関数の微分法の公式を理解する	A
		べき乗の導関数	整式のべき (実数) 乗の導関数が求められる	A
	基本関数の導関数	弧度法	弧度法 (ラジアン) の定義を理解する	A
			60分法を弧度法に, 弧度法を60分法に直すことができる	A
			微分・積分では弧度法を用いることを理解する	A
			関数電卓などの計算機では, 60分法 (DEG) と弧度法 (RAD) の切り替えが必要である	B
		三角関数の導関数	公式を利用して, 三角関数の導関数を求めることができる	A
		逆三角関数	三角関数と逆三角関数の関係を理解する	A
			逆三角関数の値 (主値) を求めることができる	A
			関数電卓などの計算機では, \sin^{-1} , \arcsin , Asin などのように表す	B
	逆三角関数の導関数	公式を利用して, 逆三角関数の導関数を求めることができる	A	
	自然対数	自然対数の底 (e) の定義を理解する	B	
		無理数 e のおおよその値を理解する	A	
		e を底とする対数を自然対数と呼び, 微分・積分では e を省略して \log と表すことを理解する	A	
関数電卓などの計算機では, 自然対数を \ln で表す (常用対数を \log で表す)		B		
指数関数・対数関数の導関数	公式を利用して, e を底とする指数・対数関数の導関数を求めることができる	A		
	底が e 以外の指数・対数関数の導関数を求めることができる	C		
積分法	基本関数の積分	不定積分の公式	公式を利用して, 基本関数の不定積分を求めることができる	A
		定積分の計算	公式を利用して, 基本関数の定積分の値を求めることができる	A
	置換積分法	不定積分の置換積分法	基本的な置換を用いて, 不定積分を求めることができる	A
		定積分の置換積分法	基本的な置換を用いて, 定積分の値を求めることができる	A
			置換積分法を利用して, 定積分の値を求めることができる	C

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
積分法 (続き)	部分積分法	不定積分の部分積分法	部分積分法を用いた基本的な不定積分を求めることができる	A
			部分積分法を利用して、不定積分の公式を導くことができる	C
	定積分の置換積分法	部分積分法を用いた基本的な定積分の値を求めることができる	A	
		積分区間が0から $\pi/2$ までとき、サインまたはコサインの自然数乗の定積分の値を求めることができる	B	
微分方程式	微分方程式の解	一般解	一般解の意味、および、微分方程式の階数と任意定数の個数との関係を理解する	A
		特殊解	特殊解の意味を理解する	A
	1階微分方程式	変数分離形	基本的な変数分離形の微分方程式の解が求められる	A
		同次形	基本的な同次形の微分方程式の解が求められる	C
		1階線形	基本的な1階線形微分方程式の解が求められる	B
	2階線形微分方程式	定数係数斉次	特性方程式を用いて、定数係数斉次2階線形微分方程式の解を求めることができる	A
定数係数非斉次		斉次の一般解と非斉次の1つの解をもとめ、定数係数非斉次2階線形微分方程式の解を求めることができる	B	
線形代数	ベクトル	ベクトル	ベクトルと有向線分の関係を理解する	A
		ベクトルの成分	平面上のベクトルの1次(線形)結合の成分を求めることができる	A
			平面上のベクトルの大きさ(長さ)を求めることができる	A
		ベクトルの内積	内積の定義を理解する	A
			平面上のベクトルの成分から内積を求めることができる	A
			内積を利用して、平面上のベクトルのなす角を求めることができる	A
	行列	行列	行列の定義を理解する	A
			同じ型の行列の1次(線形)結合の成分を求めることができる	A
			2次の正方行列の積を求めることができる	A
			積が意味をなす行列の積を求めることができる	B
		逆行列	逆行列の定義を理解する	A
			公式を用いて、正則な2次の正方行列の逆行列を求めることができる	A
		連立1次方程式と行列	連立1次方程式と行列の関係を理解する	B
			ガウスの消去法を用いて、連立1次方程式の解を求めることができる	B
			連立1次方程式と逆行列の関係を理解する	B
			ガウスの消去法を用いて、正則な正方行列の逆行列を求めることができる	C
	行列式	2次の行列式	2次の行列式の値を求めることができる	A
		3次の行列式	サラスの方法を用いて、3次の行列式の値を求めることができる	B
		行列式の性質	行列式の性質を利用して、行列式の値を求めることができる	C

宇宙科学概論 の基礎・基本

1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (1 単位)	基礎事項		3	2	1	6
	太陽と銀河		6	6	2	14
	惑星		2	6	2	10
	宇宙論		0	1	1	2
細目数計			11	15	6	32

2. 分類とそれらの内容

1 / 1

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
基礎事項	基礎的力学	天文学的数値	身近な数値に置き換えて説明できる	B
		天体運動①	ケプラーの法則が説明できる	A
		天体運動②	惑星の会合周期が計算できる	B
		第1宇宙速度	軌道運動の速度が計算できる	A
		第2宇宙速度	脱出速度が計算できる	A
		ロケット	最終速度について説明できる	C
太陽と銀河	恒星と銀河	赤方変位	光のドップラー効果から赤方変位を計算できる。	B
		ハッブルの法則	ハッブルの法則について説明できる。	A
		ビッグバン	ビッグバンについて説明できる	B
		熱放射①	放射エネルギーが計算できる	A
		熱放射②	熱放射物体の温度が推定できる	A
	太陽	天文単位	1天文単位の意味と数値を説明できる	A
		太陽常数	太陽常数の意味と数値を説明できる	A
		太陽エネルギー	エネルギー源について説明できる	B
		磁力線	磁力線の張力、磁気圧の考え方について説明できる	C
		プラズマ①	プラズマの特徴を説明できる	A
		プラズマ②	磁界中のプラズマの運動の特徴を説明できる。	C
		太陽黒点	太陽黒点の特徴を説明できる	B
		太陽フレア	太陽フレアとは何か説明できる	B
		太陽風	太陽風の特徴を説明できる	B
惑星	太陽-惑星系の科学	地磁気	地磁気の特徴を説明できる	B
		磁気圏	磁気圏の特徴を説明できる	C
		惑星①	内惑星と外惑星の特徴を説明できる	B
		惑星②	地球と金星の相違点を説明できる	A
		年代測定	放射性同位元素による年代測定について簡単な計算ができる	A
	地球の大気	大気層の区分	大気層の区分について説明できる	B
		電離層	電離層の成因と特徴を説明できる	C
		オゾン層	オゾン層の成因と特徴を説明できる	B
		大気圧	大気圧の高度変化が概算で計算できる	B
		青空と夕陽	青い空と赤い夕陽の説明ができる	B
宇宙論	宇宙論	夜空の暗さ	夜空の暗さの説明ができる	B
		膨張宇宙	膨張宇宙の力学的説明ができる	C

物理学演習 の基礎・基本

1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
4 学年 (1 単位)	力学(質点と剛体の運動)		3	2	1	2
	熱力学		1	1	0	1
	波動		0	1	0	1
	電磁気		2	0	0	1
	原子物理		1	1	0	1
細目数計			7	5	1	6

2. 分類とそれらの内容

1 / 1

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
力学 質点の運動 剛体の回転	物理定数	万有引力定数	自然界には万有引力定数や光速等々の基本的な定数が幾つかあることについて、理解できる。	B
		物体の運動	運動の法則	Newton の運動の3法則を理解できる。
	運動状態		質点についてのNewtonの運動方程式を立てて、加速度そして速度さらには変位が求められる。	A
	運動量と力積		運動量と力積の関係、そして「運動量保存の法則」を理解できる。	B
	仕事(energy)	「エネルギー保存の法則」を理解できる。	A	
剛体の回転	剛体の慣性モーメントを導出し、剛体の回転運動を調べることができる。	C		
熱力学	熱の本性	熱力学の法則	熱がエネルギーの一種であること及び「熱力学の法則」を理解し、またエントロピーが求めることができる。	B
		気体のする仕事	等温変化と断熱変化における、気体のする仕事を求めることができる。	A
波動	波動方程式	波動方程式	弦を伝わる振動等について、波動方程式を導ける。	B
電磁気	電界と磁界	Coulombの法則	Coulombの法則、電界、電位そしてGaussの定理を理解できる。	A
		Ohmの法則	Ohmの法則、電流の作る磁界、電流が磁界から受ける力、Lorentz力そして電磁誘導について理解できる。	A
原子物理	極微の世界	放射線	$\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ 線(X線)の違いを理解できる。	A
		二重性	粒子性と波動性の二面性を理解できる。	B